

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	効果的なコンテンツ作成に重要なコーディネータ育成のプログラム開発および実証		
法人名	学校法人 福田学園		
学校名	大阪リハビリテーション専門学校		
代表者	理事長 福田 益和	担当者 連絡先	松崎英明 TEL 06-6352-0091

1. 事業の概要

学校での特色にあった有効なeラーニングコンテンツの開発には教員の関わりが重要であるが、一方では教員に学校教育や臨床実習に専念できるような環境を提供することがより重要であり、その意味からコンテンツ制作に関する負担を軽減することは、教育総合デザイン上の大きな観点となる。そのためには、教育内容やノウハウ・資料等を提供する教員と、コンテンツを造り込む開発担当者の分業体制を構築するとともに、教員の希望する内容と開発担当者が制作したコンテンツとの間にミスマッチが生じないようにするために、コーディネーター的役割を担う人材が不可欠であり、3者の協力体制を確立する必要がある。

教員の設計を的確に把握し、それをコンテンツ開発を担当する者に正確に伝えることのできるコーディネーターの存在が、教員やコンテンツ開発担当者の時間と労力の節約につながり、コンテンツの品質向上とコスト削減にも大きく寄与することになるが、今までのeラーニングコンテンツ開発においては、このような媒介者の存在がほとんど無かったことにより、教員が考えている設計をうまく開発者に伝えられず、教員自らがコンテンツ設計・開発・運営まで携わって、納得のいくコンテンツを追及していたのが現状としてある。

本事業では、コーディネーターとして実際に担当者を配置し、リハビリテーション教育におけるeラーニング実運用に使用するレベルの高品質なコンテンツを開発する中で、教員とコンテンツ制作者およびコーディネータの連携作業を円滑に進めるコミュニティの形成を図るとともに、それから得られる知見をまとめて、コーディネーターを育成する教育プログラムを開発した。

本事業での開発内容は、医療系分野だけでなく、広く他分野でも活用出来る汎用的なものに仕上がった。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

■開発

コーディネーターとして実際に担当者を配置し、eラーニング導入からコンテンツ開発・実施までの軌跡を報告書として作成した。また、コンテンツ開発を実際に行なう過程において、コーディネーターの作業や役割を整理し、汎用的なコーディネーター育成プログラムを開発した。これは、「eラーニングコーディネーター育成BOOK」として作成し、実験的に実施できる段階まで到達できた。

eラーニングコンテンツは、コーディネーターの活動のもと、教員が内容の設計を行い、開発技術者が作成した。内容は、「基礎医学」、「臨床医学」、「リハビリテーション医学」、「各療法の専門技術」、「関連職種の見解」の中から、本事業の目的を遂行できるような、いろいろなメディアを活用したテーマを開発分科会で検討した。コーディネーター作業の整理と知見の蓄積のために、20コンテンツを作成し、LMSを使って実際に運用した。作成したコンテンツは、報告のためにCDにまとめた。

■調査

5校のヒアリングを行い、調査結果をまとめた。コンテンツ開発の経験が少なく、開発する時間の少ない教員にとって、コーディネーターの存在が有用であることがわかった。教員が共有できるテーマの下に、具体的な内容、綿密な行動計画をたてることに加え、コーディネーターの活用をブレンドすることによりeラーニングを推進できると確信した。

②事業により得られた成果

■「eラーニングコーディネーター育成BOOK」

コーディネーターの作業や役割を整理し、汎用的なコーディネーター育成プログラムを開発し、テキストとして使用できるようにまとめた。

■「eラーニング導入からコンテンツ開発・実施までの軌跡・視察報告書」

システム選定・導入から、コンテンツ開発・eラーニング実施までの、eラーニングコーディネーターとしての活動軌跡と、その過程で作成した成果物を、時系列にまとめた。

また、6カ所の国内視察の内容を報告書としてまとめた。

■「開発コンテンツ一式(CD)」

開発したコンテンツ一式をCDにまとめた。

③今後の活用

本事業で担当したコーディネーターと、活動したコミュニティをもとに、参画する教員を増やし、リハビリテーション教育のeラーニングコンテンツの規模の拡大をする。また、具体的な教育経験が少なく、OJT中心であったリハビリテーション分野の養成校教員が、本事業の調査過程においてID手法を理解することで、教育内容を「誰に」「何を」「どの程度」習得すべきかを分析し、達成目標を観察できる表現で指導できるようにレベルアップを図る。さらに、教育プログラム全体を踏まえ、コンテンツ学習を有効利用できる教員を増やす。

また、作成したテキストを広く活用していただき、医療系のみならず、様々な分野のコーディネーター育成につながっていくことを望む。

④次年度以降における課題・展開

開発したコンテンツおよびコーディネーターに関する知見などの情報を継続して公開していくことで、18年度以降より継続して行なっているID手法を用いたeラーニング開発のモデル校として機能を果たして予定である。

さらに、研究開発の結果は、学会での発表を予定している。

今後は、医療系のみならず他分野での優秀なインストラクターを育成プログラムの開発が急がれるとともに、開発教材の利用が有効と思われる分野の専門学校に対しその利用の啓蒙を進める。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

大学および専門学校の医療系学科で利用されているeラーニングコンテンツについて、その内容および利用形態について、文献およびWebを利用して調査した。

上記調査をもとに先進的なeラーニング導入事例をサンプリングし、現地ヒアリングを実施して開発体制や協力体制のあり方を調査し、本事業のコーディネーター育成プログラム開発の参考とすると共に、将来の共同開発・共同利用を視野においた課題整理を行い、報告書にまとめた。

②プログラムの開発

コンテンツ開発を実際に行なう過程において、コーディネーターの作業や役割を整理し、汎用的なコーディネーター育成プログラムを開発し、報告書にまとめた。

eラーニングコンテンツは、コーディネーターの活動のもと、教員が内容の設計を行い、開発技術者が作成した。内容は、「基礎医学」、「臨床医学」、「リハビリテーション医学」、「各療法の専門技術」、「関連職種の理解」の中から、本事業の目的を遂行できるような、いろいろなメディアを活用したテーマを開発分科会で検討した。コーディネーター作業の整理と知見の蓄積のために、20コンテンツを作成し、CDにまとめた。

③実証講座

- ①プログラム概要紹介、
- ②eラーニングのビジョン策定、
- ③IDプロセスモデル、
- ④目標設計、
- ⑤評価設計

について、4グループに分かれてワークショップ形式で実施した。

実施結果はアンケートを行い、報告書に反映させた。

④その他